東海ノア
（東海 NOAH）

東海ノア通信

［原子力事業所安全協力協定］

第３０号（平成１９年 12 月発行）
東 海 ノ ア 協 定 事 務 局
（原子力機構・原子力科学研究所内）
Telephone：029-282-5801
E-mail：t-noah@jaea.go.jp

東海ノア通信 第３０号 をお届けします。

東海ノアでは「平成１９年度年間基本活動計画」に基づく活動を展開しております。本号は、東海ノアの日頃の活動を紹介するとともに、協定の目的の一つでもある情報の共有化のための記事も紹介しております。

東海ノア協定に基づく活動状況は、ホームページでも紹介しています。アドレスは、http://tnoah.tokai-sc.jaea.go.jp/ です。

トピックス

☆活動状況

- 安全協力委員会の開催状況
- 活動推進幹事会の開催状況
- 自主保安に関する協力活動
- 安全教育に関する協力活動
- 緊急時に対応するための協力活動

☆加盟事業所からの事業所紹介

☆委員、幹事の交代について

☆今後の活動予定

東海 NOAH：
東海村（東海）、那珂市（N）、大洗町（O）、旧旭村（A）…現鉾田市、ひたちなか市（H）

☆活動状況

安全協力委員会の開催状況

〇第１７回　安全協力委員会

開 催 日：平成１９年１０月３日（水）

開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所

主な議題：

⑴ 平成１９年度上期の活動状況と下期の活動計画について

⑵「緊急事態協力活動要領」の一部改正について

⑶「活動推進幹事会」の幹事長及び副幹事長の選出について

⑷「原子力事業所安全協力協定」の委員長及び副委員長、並びに「緊急事態協力活動要領」の本部長及び副本部長の選出について

⑸ その他

活動推進幹事会の開催状況

〇第４０回活動推進幹事会

開 催 日：平成１９年１２月１１日（火）

開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所

主な議題：

⑴ 平成１９年度茨城県原子力総合防災訓練に伴う東海ノアの対応結果について

⑵ 平成１９年度東海ノア総合訓練実施結果について

⑶ 平成１９年度第１回安全教育研修実施結果について

⑷ 平成１９年度第２回安全教育研修の実施について

⑸ 東海ノア通信第３０号の発行について

自主保安に関する協力活動

協定に加盟している事業所を対象に、核燃料物質使用施設、放射性物質取扱施設等の安全担当実務者及び防火管理の安全担当実務者からなる専門家を派遣し、安全管理について様々な観点から確認、意見交換を行い、安全管理の向上に役立てるための活動を行っております。

○平成１９年度第２回自主保安点検協力活動

今年度第２回目の活動は、核物質管理センター東海保障措置センターを対象に実施しました。

実施状況については次のとおりです。

⑴実施日　　：平成１９年１１月２１日（水）

⑵ 協力点検実施者：３名（敬称略）

・原子力機構核燃料サイクル工学研究所　　岡　　努
・三菱原子燃料株式会社　　古橋　栄
・株式会社ジェー・シー・オー　　宮内　宏和

⑶ 活動内容

・点検シートに基づいた質疑・応答
・現場巡視確認
・意見交換

事業所の対応者(左側)と意見交換を行う点検協力実施者（右側）

施設の説明を受ける点検協力実施者

安全教育に関する協力活動

○平成１９年度第１回安全教育研修

１１月１４日（水）に、原子力機構 原子力研修センターにおいて開催し、５事業所より１８名が参加しました。

今年度は、女性の参加者が半数を占め、放射線に関する机上教育を行った後、午後からは実習として放射線及び放射能濃度の測定等を行い、とてもわかりやすかった等の感想がありました。

「放射性物質の性質」についての講義風景

測定実習についての説明を受ける研修生

測定器を使用して宝探し？

今年度第２回目の研修は、平成２０年２月１５日（金）に日本原子力発電㈱総合研修センターにて開催予定です。

第１回目と同様に基礎的な研修内容となっておりますので、ぜひご参加ください。

なお、研修のご案内については１月に加盟事業所宛に配信する予定です。

緊急時に対応するための協力活動

○茨城県原子力総合防災訓練への参加協力

茨城県原子力総合防災訓練が、原子力機構 大洗研究開発センターを想定発災事業所として、９月 28 日（金）に実施されました。

訓練は、「常陽」でナトリウムが漏えいし、建屋火災が発生するという想定で行われ、大洗研究開発センターから東海ノアへ協力要請があり、原子力機構 核燃料サイクル工学研究所から大洗研究開発センターに消防車が出動しました。

また、大洗研究開発センターから配信された事故情報（訓練情報）を随時加盟事業所に配信し、情報の共有化を図りました。

茨城県原子力総合防災訓練の様子

（原子力機構 大洗研究開発センター　提供）

○東海ノア総合訓練の実施について

原子力機構 原子力科学研究所を想定発災事業所とした東海ノア総合訓練を１０月２４日（水）に実施し、通報連絡者を含め６６人が参加しました。

訓練は、同研究所で火災が拡大し、その他の原子力機構の事業所は支援体制に入り、東海ノアへの協力要請を行うという想定とし、加盟事業所への通報連絡を行い、原子力機構事業所を除く協力活動本部員が、本部を設置する日本原子力発電㈱東海・東海第二発電所（原電東海）に集結しました。

集結後は、所要時間の確認、原電東海への入所手続き、活動本部の設置場所（連絡デスク室）の確認及び協力活動内容の確認等を行いました。

原電東海「連絡デスク室」の説明を受ける協力活動本部員の方々

☆加盟事業所からの事業所紹介

当社の安全文化醸成への取り組みについて

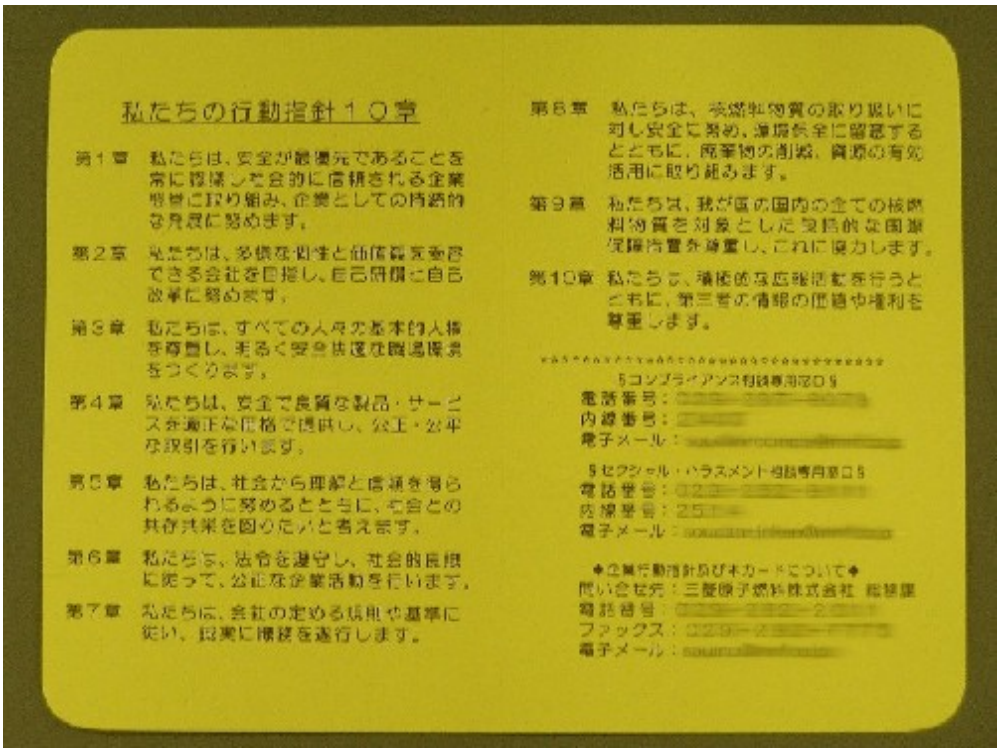
三菱原子燃料株式会社

当社は昭和 46 年に、三菱金属(株)（現　三菱マテリアル(株)）と三菱原子力工業(株)（現　三菱重工業(株)）両者の原子燃料部門が統合し、三菱金属(株)、三菱重工業(株)、ウエスチングハウス社の出資により、我が国初の加圧水型軽水炉（PWR）用燃料の一貫製造メーカとして設立され

ました。当社ではＰＷＲ用燃料の加工に加え、現在我が国唯一の商業用再転換工程を有することから、他社向け二酸化ウラン粉末の製造も行っています。

私たち三菱原子燃料は、安全の確保を操業の基本に据えており、安全文化の醸成に向けた活動を行っております。実施している活動としては、経営幹部や安全衛生委員による安全衛生パトロール、優良職場の表彰、安全衛生標語の表彰等があります。また作業要領書の重要部分に“矢羽マーク”を付け、安全に関する情報が意識できるようにする活動も行っています。

さらなるモラル向上を図るため、社員全員の目標として「私たちの目指すもの」を、また行動指針として「私たちの行動指針１０章」を定めました。さらには、これらを記載した携帯カードを社員全員が署名して携帯し、自らの目標・指針として真に身に付けるよう心掛けております。



携帯カード

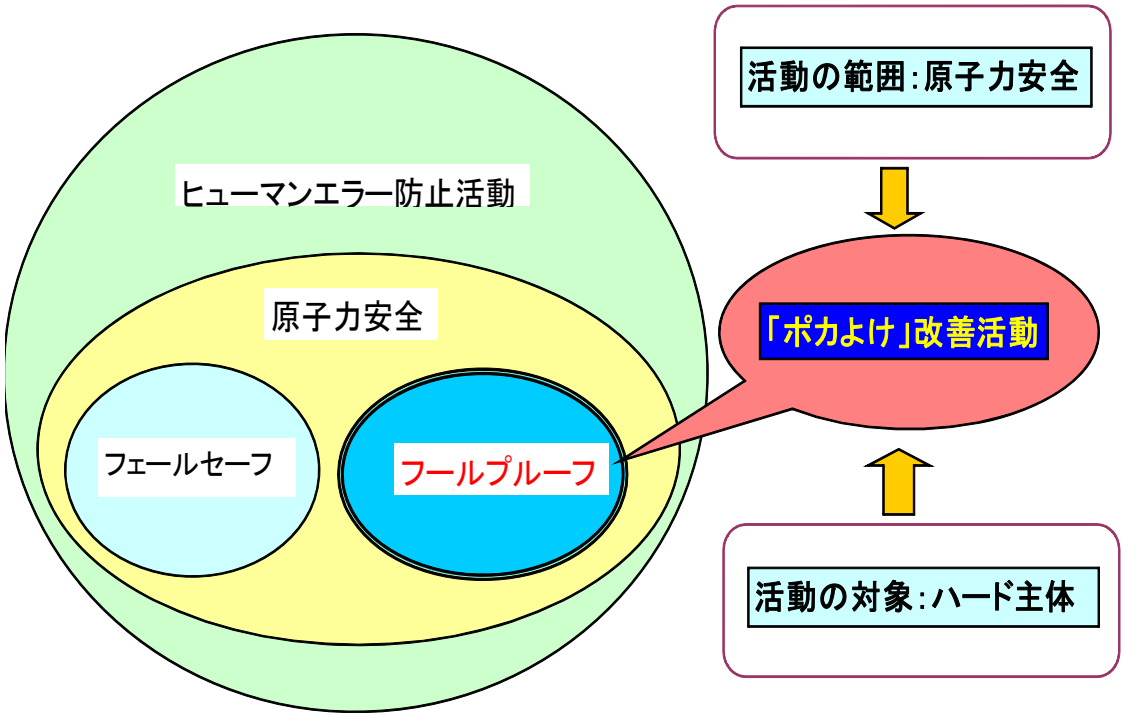
原子力安全及び労働安全衛生風土の醸成を図り、世界一流の安全な工場を作ると共に安全文化への構築に寄与するための活動を展開するため、原子力安全並びに労働安全衛生に関するヒューマンエラー防止活動も推進しています。当社のヒューマンエラー防止活動では、

（１）ポカよけ改善活動　（ハード面でのヒューマンエラーの防止）

（２）ＫＹ活動　　（ソフト面でのヒューマンエラーの防止）

（３）ＫＹＴ活動　　（ＫＹワンポイントレッスンシート）

に取り組んでおります。



注）フェールセーフ、フールプルーフは一般安全にも適用しています

ヒューマンエラー防止活動とポカよけ改善活動の関係

これらの活動を通じ安全文化を我がものとしていくことで、今後とも更なる安全確保に努めていきたいと考えております。

☆委員、幹事の交代について

〇安全協力委員会

新たに委員となられた方は、次のとおりです。

（敬称略）

・原子力科学研究所長　（安全協力委員会委員長）

小山田　修　（10 月から）

☆今後の活動予定

・平成１９年度 第２回安全教育研修・・・・・・・・・・・・・　２月
・第４１回活動推進幹事会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２月
・第１８回安全協力委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３月

編集後記

１２月に入り寒さが日々増してきましたが、皆様元気にお過ごしでしょうか。

東海ノア通信も平成１２年度から７年を迎え第３０号を発行する運びとなりました。今後も目的でもある「情報の交換、共有化」等を行いながら皆様の参考となるように趣向を凝らして行きたいと考えています。

東海ノア
（東海 NOAH）

東海ノア通信

記事の中で、「日本原子力研究開発機構」は
「原子力機構」と略称で記載しております。